

公式LINEで毎号配信

エントリーで
5千円相当が
当たる!!

(エントリーフォームは不定期配信)



全厚労ニュース

全 国 労働組合連合会
厚生連〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5

TEL 03-3874-3591

FAX 03-3874-3593

発行日 毎月20日

<https://www.zenkouro.org/>

被爆地・広島から核兵器廃絶を いのちを守る医療労働者として 平和への決意新たに



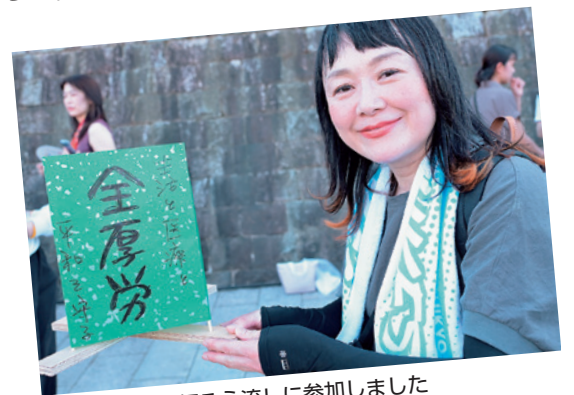
静かに川面を流れる灯ろう

原水爆禁止2026年世界大会・広島が8月4日から6日まで、「被爆者とともに 核兵器のない平和で公正な世界を―人類と地球の未来のために」をテーマに広島市で開催されました。被爆から81年。世界各地で戦争と軍拡が続く、「核抑止」の名のもとに核兵器使用の危険が高まるなか、被爆地・広島から核兵器廃絶を求める声を国内外へ発信する大会となりました。全厚労からは全体で39名(内オンライン5名)が参加し、総会や多様な

テーマの分科会に参加しました。4日の開会総会には、被爆者をはじめ平和運動関係者や海外代表らが集いました。大会では、広島・長崎の被爆の実相を学び、次の世代へ継承すること、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求めること、国境を越えた連帯を広げることが大きな柱として示されました。国際会議宣言でも、ウクライナやガザなどで戦争

運動で切り拓く 核兵器なき世界

が続く世界の現状を踏まえ、「核抑止」に依存する安全保障から脱却し、対話と外交による平和構築を進める必要性が強調されました。核兵器のない世界は遠い理想ではなく、市民の世論と運動によって切り拓く課題であることが共有されました。5日は市内各所でフォーラムや分科会、動く分科会が行われました。「非核平和の世界へ、労働運動の課題と果たす役割」の分科会では、平和とは単に戦争がない状態ではなく、人間らしく生き、働く権利と自由が保障される社会であるとの認識が示されました。世界には約1万2000発の核弾頭が存在し、そのうち約4000発が即時使用可能な状態にあるとの危機感も共有され、対話と連帯を広げる労働組合の役割が語られました。「平和であって初めて安心して働ける」という言葉は、医療・介護の現場で働く私たちにも重く響きます。労働者のいのちと暮らしを守る運動と、平和を守る運動は決して別々ではありません。



灯ろう流しに参加しました

同日夕方の日本医労連産別交流会では、高橋信夫代表理事(広島原水協)から「広島・長崎の原爆被害と核兵器廃絶」をテーマに学びました。原爆は熱線、爆風、放射線によって人命を奪うだけでなく、病院や医薬品、水、そして医療従事者までも奪い、医療体制そのものを崩壊させます。「原爆医療は、被爆者をつくらないことでは成り立たない」との指摘は、いのちを守る医療労働者にとって核廃絶が自らの課題であることを改めて突きつけるものでした。夜には相生橋T字路で反核平和ペンライト行動も行われ、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める思いを光に託しました。



平和の願いを込めて

とした特別企画や、韓国、マースシャル諸島、アメリカ、コスタリカなど海外代表からの発言、日本の運動の決意などが続き、核兵器のない世界を実現するため、地域・職場から行動を広げていくことを確認しました。

**灯ろうに
願いを込めて**

6日夜、相生橋近くの基町河川公園で「ヒロシマデーとうろう流し」が行われました。日中の厳しい暑さが残る夕刻、灯ろうが静かに川面を流れていく光景に、多くの犠牲者への追悼と「二度と

ヒロシマを繰り返さない」という願いが重なりました。被爆の実相と被爆者の願いを受け継ぎ、次の世代へ伝えていくことの大切さを、あらためて胸に刻む時間となりました。核兵器と人類は共存できません。いのちと暮らしを守る医療労働者だからこそ、戦争を許さず、核兵器廃絶を求める声を上げ続ける必要があります。全厚労は、今回広島で学び、感じたことを職場と地域に持ち帰り、核兵器のない平和で公正な世界の実現へ、仲間とともに歩みを進めていきます。



原爆の子の像

リハビリ職の処遇改善を国政・厚労省へ要請

小川克巳参議院議員秘書・厚労省と懇談

単位数ノルマではなく
質を評価する制度へ

全厚労四役とリハビリ職の中核（6県11名）は7月14日、参議院議員会館会議室にて小川克巳参議院厚生労働委員長の秘書と懇談し、リハビリテーション職の処遇改善、人材確保、診療報酬制度の見直し、地域医療における人材格差など、現場が抱える課題を訴えました。

懇談では、ベースアップ評価料など一定の処遇改善策が講じられているものの、リハビリ職の賃金水準は依然として低く、十分な賃上げにつなげていない実態を報告。山口厚生連でのアンケートでは9割以上が賃上げを求めていることや、

職の役割が広がる一方、処遇が追いついていない現状を訴えました。厚労省側からは、賃上げ状況を踏まえた実態調査を行い、今後の対応を検討する考えが示されました。

また、20分を1単位とする現行制度や週108単位の上限がノルマ化し、職員の疲弊やリハビリの質低下を招いているとの現場の声を紹介。単位数だけに依存しない報酬体系や、地域・病院機能に応じた柔軟な人員配置、加算要件への見直しを求めました。

患者に必要なリハビリを提供し続けるためには、そこで働く職員が安心して働き続けられる処遇と制度が欠かせません。今後も現場の声を集め、全厚労として国や関係機関に改善を求めていきます。



小川議員秘書との懇談

県境越え仲間が団交を支援

香厚労 夏季一時金 粘り強く交渉

香川県厚生連労働組合は、夏季一時金をめぐる団体交渉で、前年の1・8カ月から0・1カ月減となる「1・7カ月」とした会側の回答に対し、1・8カ月支給を求めて粘り強く交渉しました。組合員の99%が1・8カ

月支給を求めていることを経営側に伝え、人材確保や離職防止、職員のモチベーション維持のためにも減額は認められないと訴えました。このたたかいを支えよう

と、香厚労の要請を受け、全厚労西日本ブロックの各県の仲間（全厚労含め5県15名）が団交支援に結集。7月28日（火）滝宮総合病院会議室で西日本ブロックが県境を越えた連帯で交渉を後押ししました。

会側は厳しい経営状況を理由に1・7カ月を提示しましたが、0・1カ月分は約2,000万円。組合側は「1日5分の時間外労働削減」を労使で進めること



西日本ブロックから団交支援！

ドクター山本晴義の心の相談室（21）

日々の小さな達成感を大事に

職業柄、さまざまな人とお話しする機会がありますが、メンタル不調に陥りやすい人ほど「できなかったこと」に意識が向きやすいように感じます。「あれができなかった」「ここが足りなかった」と自分を厳しく評価し続けてしまうのです。

以前、就職活動中で最終面接を控えた学生から、「私に足りないところはありませんか？」と尋ねられたことがあります。その学生にしてみれば、今からでも不足している部分を補い、少しでも良い



山本晴義先生

かりに目を向けがちです。しかし、できていることに目を向けること、小さな成功を認識する習慣も大切です。

「今日は定時に帰ることができた」「億劫（おっくう）だったメールをすぐに返信できた」「帰宅後にすぐに家事にとりかかれた」など、どんな小さなことでも構いません。そうした小さな達成感を積み重ねることが、自分への信頼を少しずつ育てるのです。

大きな成功は、毎日訪れるものではありません。しかし、小さな達成感は毎日の中にあります。それに気づくことが心の健康を支え、また明日頑張ろうと思える活力になるのではないのでしょうか。

頑張る仲間

各県

この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第219回は福島・広島にお願いしました。



福島 風間顕成さん

4月より福厚労で専従を務めております、風間顕成と申します。

これまで診療放射線技師として4つの病院で勤務し、患者様に安心して検査を受けていただけるよう努めてまいりました。その経験を活かし、組合員の皆様の声にしっかり耳を傾け、働きやすい職場づくりに貢献してまいります。

休日は息子の野球を楽しみ、野球から学ぶチームワークや粘り強さを組合活動にも活かしていきたいと考えております。

今後も専従として学ぶことは多いですが、責任を持って一つひとつの活動に取り組んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

尾道支部・梅岡里美署名担当大臣。

この人あ、とにかく人が好きじゃけえ！ビール片手によう笑い、気がつきゃ1人コントが始まっとる（笑）夏になりやピキニでプールウォーキングを楽しみ、元気さは誰にも負けん！カーブの応援にや熱が入り、テニスじゃ「コート内120歳！」言いながらも軽快に走り回るんよ。

しかも署名活動が大好きで、なんと1人で1000筆集めてくる行動力の持ち主！人とのつながりを大切にしとるけえこそできる技じゃね。家族や仲間との絆を何より大事にし、周りを笑顔にするパワーは抜群。人情と根性とユーモアを兼ね備えた、まさに広島魂あふれる人じゃけえ！



広島 梅岡里美さん

まちかど珍画報

カクイシジュンスケ



国旗損壊罪＝愛国強制法？

今月はキーワードクイズ

【問題】全厚労も参加しました。8月6日広島原爆の日平和記念公園そばの川岸にて行われる、犠牲者の慰霊と恒久平和を祈る伝統行事。

答え『とうろ□□□し』

紙面をヒントに答え(7文字)を、右QRコードまたは下記あて先へお送りください。



当選者（読者の声掲載者含む）15名様に図書（クオ）カードを差し上げます
答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。当選の結果は発送をもって
代えさせていただきます。5月号の答えは「ゲンジボタル」で、当選倍率は4・2倍（ク
ロスワード・聞かせて、読者の声計15名当選）でした。

締め切り：2026年9月末日 消印有効
あて先：〒110-0013東京都台東区入谷1-9-5-6F 全厚労 ニュース係
読者の声・クイズ答えはQRコードよりスマホから投稿できます♪

読者の声

1面に記載されたベースアップの報告に元気をもらいました。若手がやる気になってくれるのは嬉しいです。ですが、就職氷河期世代も気にかけてくれると嬉しいですね。

——同感。自分ももう少しで定年もしなくなる。モチベーション維持して仕事するには賃金アップが必要だと思う。

（OG）

昔は【男性の育休】なんて考えられませんでした。たまたま休みに姪っ子の子守りをする「我が子の時にいつもこんな事

をしてきてたのか？」と今さらながらに感じ、反省します。世の中のお母様方に感謝します！

（三重）

——昔に比べて祖父母との同居が少なくなり、夫婦のみで子育てする人が増え、更に男性育休でも給料補填があればとる人は増えるでしょうね。補填があれば私も取りたかった。妻には日々感謝しありません。

（KU）

初めて引越しました。実家生活から違う地域へ行き住むことの不安感より、いろんな物の高さや税金などで今まで以上に通帳からお金が消えていく悲しさ…。給与と賞与アップを切に

望む今日この頃。

（岐阜）

——物価高すぎまじいですよね。同じくらい診療報酬が上がらないと私たちの賃金も上がりません。一緒に組合運動頑張りましょう☆

（OK）

夏ですね。北海道の夏は涼しいと言われますが、この頃は猛暑になります。エアコンのない我が家は「購入しようか相談しているうちに秋になる」を毎年繰り返しています。いつかはエアコンがつくのでしょうか

（北海道）

——欧州も凄まじい猛暑が記録されていますね。異常気象でしょうか。熱中症お気を付けてください。

（EN）

豪雨・台風被災も給付対象

豪雨や台風など自然災害が続いています。豪雨・台風の際し、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。火災共済に加入されている方は、給付対象となります。給付申請のためには、被災直後の加入者自身の初期対応がとても大切です。初期対応で大切なのは、①医労連共済への報告（住宅災害状況報告書の提出）②被害の記録（写真・屋根などの場合は業者見積りの際に撮影を依頼して下さい）③罹災証明と修復のための見積りです。被災直後の対応について周知をお願いします。詳細は、医労連共済パンフレットを参照して下さい（医労連共済ホームページでDLできます）



労働組合用語集

不当労働行為：使用者が労働者の団結権、団体交渉権、争議権の三権を侵害する行為。組合活動への参加を理由とする不利待遇や組合加入を妨げる行為、団体交渉の拒否、組合結成・運営に支配介入することなど、労働組合法第7条は、こうした不当労働行為を禁止している。

教宣部のつぶやき

灯ろう流し
今年も原水爆禁止世界大会in広島に参加し、核兵器廃絶と平和への願いをあらためて胸に刻みました。8月6日の広島は厳しい暑さでしたが、夕暮れの元安川では多くの灯ろうが静かに流れ、犠牲者を悼む祈りの光が水面を包み込みました。被爆80年を越えた今、記憶をつなぎ、平和を守る行動を続けたいと思います。

（AK）

広厚労吉田支部 安芸高田市市議と意見交換会

7月7日、広厚労吉田支部執行部は吉田総合病院がある安芸高田市の市議会議員と地域医療について意見交換会に参加しました。

吉田支部は2024年から市長をはじめ市議会議員と当院で働く職員として現場の声を届けるなど要請行動を行っていきます。今回市議と意見交換会に至ったきっかけは以前から面談を通してつながりのある議員が当院に入院したことです。以前伝えた現場の声を知ったうえで入院生活で感じたことなどを直接聞いてみたい、当院の医療環境が少しでも良い方向になればと思います、ご本人と連絡を取りました。意見交換会として開催をと快く応じてくださいました。



市議会議員と懇談の様子

当日まで市議会側は4名出席と確認していましたが、当日11名の出席と知り、当院について、地域医療について市議の間で関心の高さがうかがえました。

まずは組合側から市議会一般質問で当院についてどう支援していくかと取り上げて下さったことや看護師奨学金制度導入について感謝を伝えました。現場の声としていつも同じ内容（やはり紙カルテ、老朽化問題が中心）ではあります。当院の現状と住民にとって安心できる地域医療の提供について危惧していることなどを伝えました。30歳代の市議

市議会議員と懇談の様子

は「どうして30歳代の看護師が少ないのか」「なぜやめてしまうのか」と質問され、安芸高田市は娯楽や働く場所が少ないこと、産婦人科が市内にないことなど、生活環境として乏しいことが多いからではと、意見も加えて回答しました。安芸高田市としての問題が当院の問題に直結して看護師が5、10年の間に定年（50歳以上がほぼ半数）を迎え、当院の規模で新採用看護師の一定数の獲得も難しく、看護師は今後間違いなく減少し地域医療への影響は避けられないことも伝えました。

市議からは「かかりつけ医からいつも『吉田病院がなくなったら我々も運営ができなくなるので何とかしてもらいたい』と言われている」「吉田

病院がなくなると困るので何とかしたい」「一職員、組合でこのような要請活動をされていることに驚いた」など様々な声をいただきました。一方で「吉田病院は公的病院なので……」「補助金もこれ以上は……」と厳しい声もありましたが、こちらから支援を要求するばかりではなく、医療専門職として地域でできることは何かを考え、提供したいことも伝えました。

青年部が新人組合員歓迎会で活躍

福厚労 新人組合員研修会

福厚労は7月18日、磐梯熱海温泉ホテル華の湯（郡山市）にて、新人組合員研修会を開催しました。開会セレモニーは、大友浩介中央執行委員長の挨拶で始まり、本部役員の紹介を行いました。学習会は佐々木崇中央書記長より「労働組合ってなに？」とのタイトルで行い、厚生連や労働組合の詳細に加えて、福厚労が作成・配布している「わたしの権利手帳」の見方などを伝えました。専門部紹介では、組織部・教育宣伝部・女性部・看護委員会・青年部の代表者が活動内容を報告しました。福厚労伝統の寸劇「闘え！労組レンジャー」。青年部が直前まで練習を行い披露し、拍手喝采でした。

新人職員全員が集まる最初で最後の機会となるこの研修会は、とても重要な機会と位置付けて行われています。その思いの伝わる充実した研修会となりました。



寸劇・労働三法マンガが活躍!!

香厚労 新人オリエンテーションと新年会

香厚労は1月31日、リーガゼスト高松（高松市）にて2025年度新人オリエンテーションを開催しました。オリエンテーションでは、初めに組合活動と、各専門委員会の活動報告を行いました。交流企画として宝探しゲームも行い、上位3チームには景品をプレゼント。その後、四役のメンバー紹介をしました。オリエンテーションでは、大きい意味での活動内容報告のみに留めず、身近な悩み（休み、ハラスメント、お金の悩み）を相談できる先が組合。ということを重点的に伝えました。また、オリエンテーション後は同会場で懇親会を実施し、横の繋がりも実感してもらうことができました。



新人組合員を見守る青年委員